

第16回

あたたつて 日本癌病態治療研究会の開催に

第16回日本癌病態治療研究会当番世話人
東京女子医科大学東医療センター 外科

小川 健治



このたび、第16回日本癌病態治療研究会を東京お台場の「ホテル日航東京」で開催させていただくことになりました。私どもにとりまして誠に光栄であり、名誉会長の磯野可一先生、会長の生越喬二先生はじめ、名誉会員、会員の諸先生方にあつくお礼申し上げます。

本研究会は、「癌の病態や治療法に関する研究を行い、その病態に基づく、個人個人に適した治療法を確立すること」を目的に平成4年に設立されて以来、わが国の癌研究や癌治療の一翼を担って発展してまいりました。その間、平成13年には第10回研究会を私どもの恩師である梶原哲郎先生が開催され、さらに本年第16回研究会を私どもがお世話できますことに大変感激しております。現在の癌治療は、エビデンスを重視しながらも患者個々の病態に根ざしたテイラーメイド化の傾向にあります。まさに本研究会の目的や理念は、設立15年を経た今日でも決して色褪せていないといえましょう。

癌の征圧には、その実態が見えてくればくるほど、基礎医学者と臨床医の集学的な連携が要求されます。そうした背景から、第16回研究会の総合テーマは昨年につづいて「基礎と臨床の統合」と致しました。それに伴う特別企画として基礎の先生方にご講演をいただく「基礎からみた癌治療」、シンポジウムとして最近進歩の著しい分野である「再生医療の癌治療への応用」を企画し、要望演題には 1. 網羅的解析でみえてくるもの 2. 癌治療におけるQOLの評価 3. 癌患者の宿主要因—栄養・免疫—を取り上げました。とくに栄養や免疫など宿主要因に関するテーマは昨年の第15回研究会から引き継いだもので、ホットなディスカッションを期待しています。

招待講演はコーネル大学の Prof. Dr. Andrew J. Dannenberg (Prostaglandins, Cancer and the Clinic: From Bench to Bedside and Back.)、特別講演は国立がんセンター研究所の佐々木博己博士（マイクロアレイ技術による上部消化器がんのシステムバイオロジー）、ランチョンセミナーは東北大学の坪野吉孝教授（がんの再発予防と罹患予防に関する栄養疫学研究の動向）、山口大学の飯塚徳男准教授（肝癌再発予測：網羅的解析からカスタムメイドシステムへ）に依頼し、他にもワークショップ、一般演題、症例報告など盛り沢山に企画し、基礎から臨床まで広く最先端の研究成果や治療成績を発表し、討論できる場にしたいと考えています。

会員の皆様方、とくに若い先生方の積極的なご参加により、実りのある研究会にしたいと考えております。何卒、宜しくお願い申し上げます。